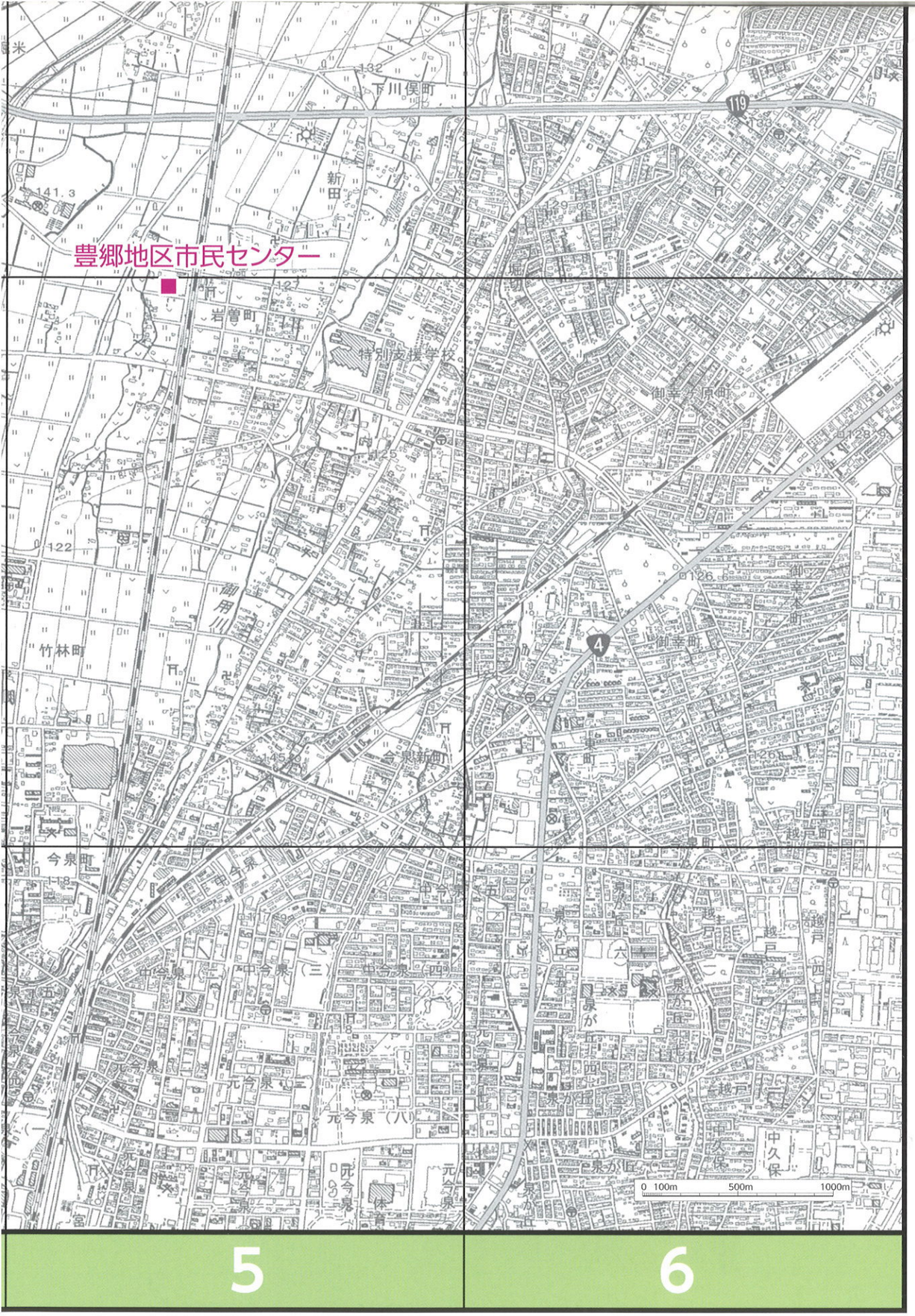

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものです。（承認番号　平28情複、第1437号）」

宸殿角輔流の獅子舞で、関堀町の観音堂で奉納される「関堀の獅子舞」、江戸時代の終わりまで二荒山神社の神領地で、県内で唯一、田楽舞を伝承している堀米地区（現・関堀町）、「堀米の田楽舞」を奉納している二荒山神社をめぐります。

長岡百穴古墳にまつわる4つの民話

長岡百穴古墳の52の穴には，室町時代の作といわれる観音像が刻まれています。この百穴と観音様には4つの民話が伝わっています。

① 第10代の崇神天皇の皇子であった豊城入彦命が東方征伐の途中、長岡の地にこられた時、付近の豪族の強い抵抗にあい、容易に征服できず大激戦になった。この戦いで、皇子の主だった家来百人ほどが戦死してしまった。悲しんだ皇子は長岡百穴に遺骸を手厚く葬ったという。

② 弘法大師が大谷に来られたおり、これより東方2里ほどのところに長岡という村があり、そこに豊城入彦命の家来衆百人の墳墓があると聞いてさっそく長岡の地を訪れてみた。すると墳墓は、ツタやカズラが生い茂り荒れ果てていた。大師は驚き、さっそく雑草を切り払い掃き清め、百人の御霊を祀るため露出した各穴の奥の壁に観音像を刻まれた。そして、長岡百観音寺を建立し、手厚く弔われた。

③ 百穴の観音像には、弘法大師一夜の作という伝承がある。大師は99体の観音像を彫り終わった時に一番鶏が鳴き、夜が白々と明け始めてしまったため、100体目を刻むことなく何処へか立ち去ってしまった。里の人達は、未完成の100個目の穴に石の観音像を安置した。この観音像は、今も存在し、元観音と呼ばれている。

④ 昔、百穴には百観音寺という立派な寺院があったということである。しかし、この寺は次のような理由で廃寺になってしまったと伝えられている。3代将軍徳川家光の時、江戸城内で諸大名を集めて「長岡百観音寺」の由来についての芝居が上演された。家光は、宇都宮城主に観音寺について尋ねたが、城主は領内にそのような寺はないと答えてしまった。宇都宮へ帰った城主は、家老から長岡に百観音寺が存在することを聞いて驚き、一夜のうちに寺を焼き払うと共に、村人に観音寺のことは口外してはならないと申し伝えたといわれている。

・『宇都宮の民話』（宇都宮市教育委員会）より